

# 北区観光振興プラン改定検討会（第4回） 議事要旨

日時	令和5年1月13日（金）15:00～17:00
場所	北とぴあ 9階 902会議室
出席者	検討委員12名出席（うち代理2名）



委員長挨拶



会議の様子



会議の様子

## 議事次第

1. 開会
2. 第3回検討会の振り返り
3. 議事
  - (1) パブリックコメントの実施結果について
  - (2) 北区観光振興プラン2023（案）について
  - (3) 今後の北区観光の推進について
4. 報告事項
  - ・東洋大学ゼミとの荒川の活用検討について（荒川下流河川事務所）
  - ・駅からマップ（エモい北区－〇〇MAP－）について（帝京大学経済学部大下ゼミ）
5. 閉会

## 配布資料

### 議事次第

- 資料1 第3回北区観光振興プラン改定検討会議事要旨
- 資料2 パブリックコメントの実施結果
- 資料3 北区観光振興プラン2023（案）
- 資料4 北区観光振興プラン2023に基づく今後の北区観光の推進について  
（別紙）北区観光振興プラン改定検討会 委員名簿
- 参考資料 東洋大学ゼミとの荒川の活用検討について  
エモい北区－〇〇MAP－（王子・十条・赤羽・田端）

## 議事要旨

### 【第3回検討会の振り返り】

－議事要旨について了承。しかるべき公開の手続きを進めることとする。

### 【パブリックコメントの実施結果について】

○公共交通と観光との連携

- ・シェアサイクルの話を含め、公共交通やMaaSなども観光と関連するものであり、観光セクションも関わっていく体制を作る必要がある。
- ・観光を広く捉え、最終的に定住化に結び付けるのであれば、コミュニティバスというコンテンツそのものを観光やプロモーション的な視点で情報発信をしていくことが大事である。
- ・北区が目指す観光は一般に使われている観光とは異なり、「シティプロモーションと一体となって、最終的には北区に住んでもらう人を増やすためのツール」として観光を捉えていることが大きな特徴であり、本プランの一番の肝である。暮らしに関わる全てが観光につながると捉え、「観光に始まり観光に終わる」ということを様々な場面で伝えていくことが重要である。
- ・他のセクションとの横串を通すのは観光の役割である。観光を他セクションとつなぐことで質の高いサービスを住民に提供できることや利便性向上につながるということを、公公連携を進める中で伝えていってもらいたい。

ーパブリックコメントの結果及び回答について了承。しかるべき公開の手続きを進めることとする。

#### 【北区観光振興プラン 2023（案）について】

##### ○渋沢栄一の経営理念と北区観光振興の方向性との関連について

- ・観光振興の展開に向けて、「渋沢栄一の経営理念に基づいた」ということを謳うことができることが北区の特徴である。
- ・渋沢栄一の経営理念を観光に重ねて展開する中で「北区観光の経営力の向上」を進めることが、改訂プランの大きな特徴であり、他に見られない新しいプランとなっている。
- ・渋沢栄一の精神につながっていくにはもっと大きく捉えることも必要である。文化振興においては、点ではなく面やエリアとして捉えて共有して伝えていくことが重要である。
- ・「北区観光の経営力の向上」は、北区の観光マーケティング力の向上と言い換えられる。公公連携の中では、観光以外のセクションも観光に意識を持って取組んでもらうことが重要である。
- ・意見を踏まえ、渋沢栄一の経営理念に関する記載についてはもう少し強調することで対応を行う。

##### ○人材育成と観光産業の捉え方について

- ・まちのあり方に興味関心を持った人がたくさん出てくるのが、非常に重要である。公民連携の中で、民がまちのあり方に興味関心を持てるようなフォローアップの体制を整えることが重要である。
- ・ここに住んで良かったと思える人を育てることが、渋沢栄一が目指した人材育成であると捉える。
- ・観光やマーケティングを担っていく人づくりは、公民双方でやっていかなければいけない。特に、民であれば、産業化していくことも必要である。
- ・北区の観光は他のまちの観光とは異なり、観光に関わる全ての分野を大きく観光産業と捉

えた考え方と、狭義の意味の観光を推進していく分野を観光産業と捉えた考え方があり、これら2つの捉え方がある。

#### ○荒川河川敷の拠点化や活用について

- ・水辺の活用や荒川河川敷の拠点化については、エリア全体のオープン化とエリアマネジメント等により、面として全体が観光としての価値を生むような取組みを推進する旨の表現を盛り込みたい。
- ・意見を踏まえ、拠点化という捉え方を広く捉えた対応を行う。

#### ○ルーラルツーリズムの記載について

- ・「ルーラルツーリズム」という言葉の解説が記載されていないので、説明を入れてもらいたい。
- ・ルーラルツーリズムとは、アーバンツーリズムの対語であり、暮らしの近いところに公園があってピクニックをするようなもので、浮間公園などの資源を積極的に使うようなイメージである。
- ・意見を踏まえ、注釈を入れる対応を行う。

#### ○その他

- ・上記のほか、表紙やデザイン等の作業を行い、冊子という形に仕上げていく。また概要版も作成する。
- ・冊子のとりまとめについて委員長及び副委員長に一任することで了承。

#### 【今後の北区観光の推進について】

- ・プランを検証しながら前に進んでいくということで了承。
- ・今後の懇談会については、北区観光に軸足を置いて責任を持って取り組まれている委員の方を中心にメンバーを選挙することです。
- ・水辺に関しては、どのように具体的に前に進めていくかなどを検討するワーキンググループや勉強会なども行い、アクションにつなげていきたい。
- ・プランを受けたアクションや予算化においては、プランの行間を具体的に埋めていくことや項目を膨らませていくことを議論できる場所が必要であり、それを受けて区が調整するようになるとよい。

#### 総括（副委員長・委員長より挨拶の内容）

##### ○副委員長挨拶

- ・北区観光振興プラン（案）の審議に関して、多彩な意見により大変実のある議論ができたことについて、委員長、委員の皆様へ感謝する。
- ・「オール北区」に関して、プレーヤーになり得る北区職員が観光に対してアンテナを張っているような組織にしたい。
- ・プラン策定を足掛かりとして、幅広い区の職員の意識を高め、全ての部署で観光の視点というものを身に着けながら皆様の気持ちを受け止めて新しいものを創造していきたい。

##### ○委員長挨拶

- ・観光の語源の一つは、地域の光を観せるということから始まっている。さまざまな観光に関わる資源があるが、最大の資源は「人」と「環境」であり、両者ともに一朝一夕に成し得るものではない。

- ・ 公民連携、公公連携、そして民間として積極的にやっという熱い議論ができたのは、委員の人材・人柄、そして地域への熱い思いがあったからであり、これらの全てが今後の北区観光につながっていく。
- ・ 検討会の中で委員各位からのご示唆、温かい励まし、エールをいただいたことに感謝したい。計画という平板なプランの策定となりがちな検討会において、プランを作りながらできることからすぐに行動に移していくという特徴的な検討も実践できた。引き続き関係機関のご協力を賜りながら改訂プランの実践にうつしていただきたい。